



第 125 回バイオサイコシンポジウム

空間学習は「特別」か？

～ 連合学習理論によるラットの空間学習の検討 ～

日時: 2010年10月21日(木) 18:30 – 20:00

場所: 三田キャンパス東館4階セミナー室

Date and Time: Friday, 21st October, 2010; 18:30 – 20:00
Venue: G-SEC Seminar Room, 4th floor, East Research Building,
Mita Campus, Keio University

講演者: **神前裕** 博士 (Durham University)

O'Keefe & Nadel (1978)による認知地図理論の提唱以来、これまで動物の空間学習は、その他の学習一般とは異なるメカニズムによって成立する特殊な形態の学習であると考えられてきました(例えば Cheng, 1986; Gallistel, 1990; Doeller & Burgess, 2008)。

今回の発表では、隠蔽やブロッキングといった学習一般に広く見られる単純な現象を用いて連合学習理論の立場から空間学習の特殊性を再検討することを試みた一連の研究を紹介するとともに、その流れの中で現在私が行っている、空間内における幾何学情報とランドマーク情報の刺激間競合に関する研究についてもお話します。

【神前裕博士略歴】

渡辺研究室で学部と修士課程の間、ラットのオペラント課題における行動的柔軟性の神経機構の研究を行われ、その後ケンブリッジ大学に移り、Dickinson教授の指導の下にラットのオペラント条件付けにおける連合過程の研究を行い、PhDを取得されました。その後、現在はダラム大学(Durham University)においてMcGregor博士とともにラットの空間学習に関する研究を、連合学習理論および神経科学の両面から行っておられます。

会費無料、事前登録は不要、言語日本語

企画: 慶應義塾大学グローバルCOEプログラム「論理と感性の先端的教育研究拠点」脳と進化班 渡辺茂

<http://www.carls.keio.ac.jp/>

E-Mail : keiocarls@info.keio.ac.jp